

平成 27 年 3 月 16 日

国連創設 70 周年記念シンポジウムにおける安倍内閣総理大臣スピーチ

デイビッド・マローン学長、御紹介ありがとうございました。

また、潘基文事務総長、素晴らしいスピーチ、大変感銘を受けました。お礼を申し上げます。

お集まりの皆様、国連にとって、また日本にとっても、今年から来年にかけては、大変重要な時期に当たります。

国連にとっては、今年が発足 70 周年。日本にとっては、来年が、国連に加わって 60 年目の年になります。私たちはこの 2 年を、「具体的な行動の年」と位置付けることにいたしました。

私たちが直面する課題は、国家の枠を超えるものばかりあります。過激主義、テロリズム、核拡散の恐れ、気候変動、恐ろしい感染症。

しかし、このことが教えるのは、ただ一つ。国際社会は、「デバイデッド」であってはならない、ますます、「ユナイテッド」でなければならないということではないでしょうか。

今年の安保理選挙において、11 度目の当選を目指して立つ我が国は、あらゆる問題、いかなる局面でも、国連内外の議論をリードしていく覚悟であります。

新たな開発のアジェンダには、日本が進めてきた「人間の安全保障」を目指す思想を、盛り込むことを訴えます。

何より、安保理の改革は、もはや議論に時間を割く時ではありません。具体的な、成果を生む時です。

日本は、一つ、一つ、実績を積み上げてきた静かな誇りを胸に、常任理事国の役割を引き受ける用意があります。今までも、そうでした。この先も、そうであり続けます。

例えば、日本にできる貢献には、新しい分野もあります。

「スマート・プラチナ・ソサエティ」。まだ、皆様の辞書には無いかもしれません。無いなら、この際「ジャパングリッシュ」として御記憶をいただきたいと思います。

情報通信技術やロボットの技術を活かし、お年を召した方々が、元気に暮らせるようにする社会のことです。

国連が、エイジングの問題に力を傾ける今、「プラチナ化」で先頭を行く日本は、得意技術の粋を尽くして取り組むつもりです。

今年、そして来年は日本にとって、国連と共に歩んだ道のりを振り返り、未来に対して決意を新たにする時となるでしょう。

戦後、日本は、先の大戦に対する深い反省の上に、自由で、民主的で、人権を守り、法の支配を尊ぶ国づくりに励みました。

目指したものは、アジア・太平洋、世界の平和と発展、繁栄に、貢献できる国となることでありました。

そう考えた父や母、祖父母ら先人たちが、再び国連に入れてどんなに喜んだか、また、感謝の念を抱いたか。後の世代の私たちも、折に触れ想像してみたいものです。

加盟が許された日、重光葵外相は国連で演説し、「日本が持つ全ての手段をもって、国連憲章が掲げる義務を遂行する」と宣言しました。

重光を継いで外相となった岸信介—私の祖父であります—が、国会の演説で、「常時、国連の権威向上と国連を通じての世界平和の確保のため、応分の寄与をなす心構えが必要」と強調しています。

初心を貫き、以来日本は、国連を支える、太くて、頑丈な柱であり続け、今日に至ります。

60年前の喜びと感謝を、常に思い起こしながら、初志を、今日の誓いとし続けること。—その意義を、私は特に、次の世代を担う若い日本人に、伝えたいと念じています。

「天国に連れて行ってくれるものではない」と、国連について述べたのは、第二代事務総長のダグ・ハマーショルドでした。

「しかし国連は、地獄行きからなら救ってくれる」と、有名なエピグラムは続きます。

東西冷戦たけなわのころ、国連の意義を諦めず、情熱を燃やし続けた人の金言は、今なお私たちの心に響きます。

しかし、日本に関する限り、国連の大切さを、誰かに説得してもらわなくてはならない必要は、まったくありませんでした。

なぜならば、皆様—、日本国民とは、国連の掲げる理想の下、自分たちに何ができるかを常に考え、力を惜しまない国民だからであります。

その点、誰と比べても、人後に落ちないからです。これまで、そうでした。今後とも、そうであり続けます。

日本が払った国連分担金、P K O分担金の累計は、その時、その時の金額の積み上げで、200億ドルを優に上回ります。過去約30年、日本を上回る財政的貢献をした国は、唯一、米国を数えるに過ぎません。

開発援助の実績は、これも当時の金額の積み上げで、3249億ドルに上ります。

自画自賛をしているわけではありません。59年前の初心を今日まで貫いたということ、自らに言い聞かせ、皆様に知っていただくため、あえて、そう申し上げております。

その上で、もう一度、訴えておきましょう。国連には、変化し、複雑化する国際社会の課題に応えられるよう、改革が不可欠であります。安保理を含む改革の実現が、欠かせません。

日本と国連との関係で、もう一つ、触れておかななくてはならないことがあります。

1990年代、東西冷戦が、私たち、自由で民主主義的な政治経済体制をもつ側の勝利として、終わった時のことでした。

日本は、アマルティア・セン、緒方貞子といった指導者とともに、安全保障の概念に、ある根底的転換を促しました。

「安全保障」という言葉の前に、「国家」でなく「ヒューマン」がつくのは、この時からです。

それは時代の変化をとらえ、日本が、年来育ててきた哲学を、国連の課題、人類の課題として、信念を持って押し出した時でもありました。

人間、一人、一人に重きを置き、読み書き、算術を教え、欠乏と、恐怖からの解放を図ってきたのは、近世以降一貫した、日本の歩みだったからでありました。

教育こそは、人が人たるための尊厳を生み、平和と繁栄の基礎をなします。犯罪や、過激主義を防ぐ、社会の安定につながります。

「すべての子供たちに質の高い教育を」一、日本が実施する支援では、この考えを常に柱の一つとしています。

私たちは、村に学校を建てます。校舎に清潔な洗面所をつくり、少女たちを不安から解放放ちます。

水を汲むだけに半日を費やし、その重労働が得てして女性の肩に食い込む。一私たちはこうした状態を不正義と思い、女性や、少女、一人一人のエンパワーメントを追い求めます。

皆様一、私たちは、こうした考え方の下、今日まで、一筋の道を歩んでまいりました。

「女性が輝く社会」をつくらうと、私は毎日話します。何度でも、いつまでも、言い続けます。

昨年開いて成功を収めた「WAW! (World Assembly for Women)」という会議を、社会の「game change」が実現するその日まで、いつまでも続けます。今年も、夏休みが明けた頃、どうか日本にお集まりください。

UN Women に対する拠出の額は、本年、一昨年に比べ、10倍に増やします。

エイズ、マラリア、結核という三大感染症撲滅を目指した、グローバル・ファンドの発足と、発展に、日本は邁進しました。

今年も日本は、ファンドに1億9000万ドルを拠出し、12月には東京で、ファンドの未来を語り合う会議を開きます。

近々日本は、ケニア政府の保健政策それ自体を支えようとする、前例の無い支援に踏み切ります。金額はおおよそ、40億円となるでしょう。

その政策とは、全ての人々が、基礎的な保健サービスを、妥当な費用で受けられるようにすること、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）」の推進です。

この20年一心に進めてきた開発政策、ヒューマン・セキュリティの思想に立つ援助の理念を、私たちはこのほど、「開発協力大綱」として発表しました。

開発とは、持続可能で、長い視点に立つものでなくてはなりません。欠乏、恐怖からの解放に加え、これからは、夢を見る自由を、人々に与えるものとなる必要がある。そのためにこそ、質の高い成長を目指さなくてはなりません。

これが、私たちの開発協力大綱に流れる思想です。「ポスト2015年・開発アジェンダ」の議論に、寄与できればと願っています。

59年前、国連加盟がなった日の演説で、重光外相は、「日本は原子爆弾の試練を受けた唯一の国であって、その惨害の如何なるものであるかを知って」と述べてきました。

確かに私たちは、誰よりも、ヒロシマ、ナガサキが、二度と繰り返されてはならないことを知っています。だからこそ、国連の場において、核廃絶の必要を訴え続けてきました。

本年は、ヒロシマ、ナガサキ以来、70年を迎える年でもあります。この両都市で重要な国際会議を開き、核軍縮の意義と、拡散の危険を訴えます。その上で、今年も日本は、国連総会に、核軍縮決議案を提出します。

今年の初め、私は、イエルサレムでヤド・ヴァシェムを訪れ、特定の民族を差別し、憎悪の対象とすることが、人間をどれほど残酷なものにしてしまうのか、深く心に刻みました。

私たちはこの6月、「アジアの平和構築と国民和解、民主化に関するハイレベル・セミナー」という会議を開きます。フィリピンのミンダナオで、スリランカで、日本外交はささやかながら、憎しみを解き、和解を促す努力を続けてまいりました。

6月に開くのは、アジアの国々が各々、そうした経験を持ち寄る会議で、場所はここ、国連大学です。

日本が今、「国際協調主義に基づく積極的平和主義」の旗を掲げていることは、皆様御存知でしょう。国連との協調、協働が、その根幹にあることは言うまでもありません。

あわせて、私たちが今、平和構築の専門家を育てるため、包括的な事業を始めることも、御記憶いただければと思います。

最後に申し上げます。

国連のような組織にとって、長寿を祝うことができるとすれば、それは、常に前進を続けていることの、証明となる場合にのみ、でしょう。

今この瞬間にも、エボラ熱に苦しむ患者がいて、無法なテロリストたちに、脅かされる命があります。大量破壊兵器の建設にいそむ者があれば、その拡散を図る者もあるでしょう。

国連とは、古くなることを予め禁じられた組織です。常に、新たに、生まれ変わることを義務づけられた集団です。なぜなら問題が、姿、形を変えようとも、いつもそこに存在し続けるからです。

国連改革は、急務であって、私たちはそのためあらゆる努力を惜しまないことを繰り返し、私のスピーチを締め括らせていただきたいと思います。

御清聴ありがとうございました。